

# for you

はちやが地域に  
贈る広報誌

ほーゆー

vol.  
13

2011 夏号

広報誌  
For You

発行日:2011年6月20日  
発行所:はちや整形外科病院  
診療情報部  
発行責任者:伴直樹  
編集協力:HIPコーポレーション

## 理事長メッセージ「医療は、命も経済も救う」③

構造転換が明日の日本を支える。

### ～医療産業と、日本の未来の相関関係～



医療法人 蜂友会 理事長 蜂谷裕道

#### 国際競争力が衰える一方、 需要が高まる「made in Japan」

日本は1960年代から“モノづくり大国”として、世界にその名を知らしめてきました。なかでも繊維、鉄鋼、自動車、半導体、家電などの産業は、リーディング産業(※1)として日本経済の牽引役を担いました。しかし近年では、中国や韓国、インドといった国々の企業の躍進がめざましく、日本の地位に翳りが出ています。

その一方で、そうした諸外国の人々が、団体での買い物ツアー、富豪層による巨額の投資といった形で、「made in Japan」を入手していることが、マスコミで報じられています。その理由は、「品質が良い」「安全だから」「安心して使う(口に入れる)ことができるから」と言われています。

#### 評価・信頼の高い今こそ、 次代のリーディング産業創出を

日本のリーディング産業が、頭打ちになる。その代わりに台頭してきた国々の人は、「made in Japan」を買う。相反するこの状態は何を物語っているのでしょうか。それは、真面目で誠実で勤勉な日本人がルールを守り、モノづくりに取り

組んできたことへの評価。だからこそ、量では国際競争力を失いつつも、質においては今なお高い信頼を得ていると思います。

そうした日本や日本人への世界の眼を意識して、今こそ次代のリーディング産業創出を、私たちは真剣に考えなければなりません。

私は、「医療」がそれに値するものだと考えます。但しそのためには、医療を、社会的保障だけではなく産業として見つめる眼が必要です。

#### 医療界のイノベーションが、 次代の国際競争力を生む

日本の医療は、かつてのリーディング産業により守られてきました。誰もがいつでも安心して医療を受けられるという、国民皆保険制度がそれを象徴しています。しかし半面、さまざまな規制や犠牲を受け、社会的保障という存在に限られてきたのも事実です。

その日本の医療が、今後の社会構造に適した医療供給システムへと転換しつつあります。それはまさにイノベーション。まったく新しい考え方を取り入れ、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすものです。これを徹底的に行い、従来の良い面は守った上で、高度な医療の効率性を追求する。そこから生まれた新しい医療供給システムは、十分に国際競争力を持ち得ます。結果、国内では関連市場の拡大と、それを含む雇用促進等で私たちの毎日を、人生を、社会を豊かにします。また海外諸国では、「安全・安心」の「made in Japan」を手にすることができます。

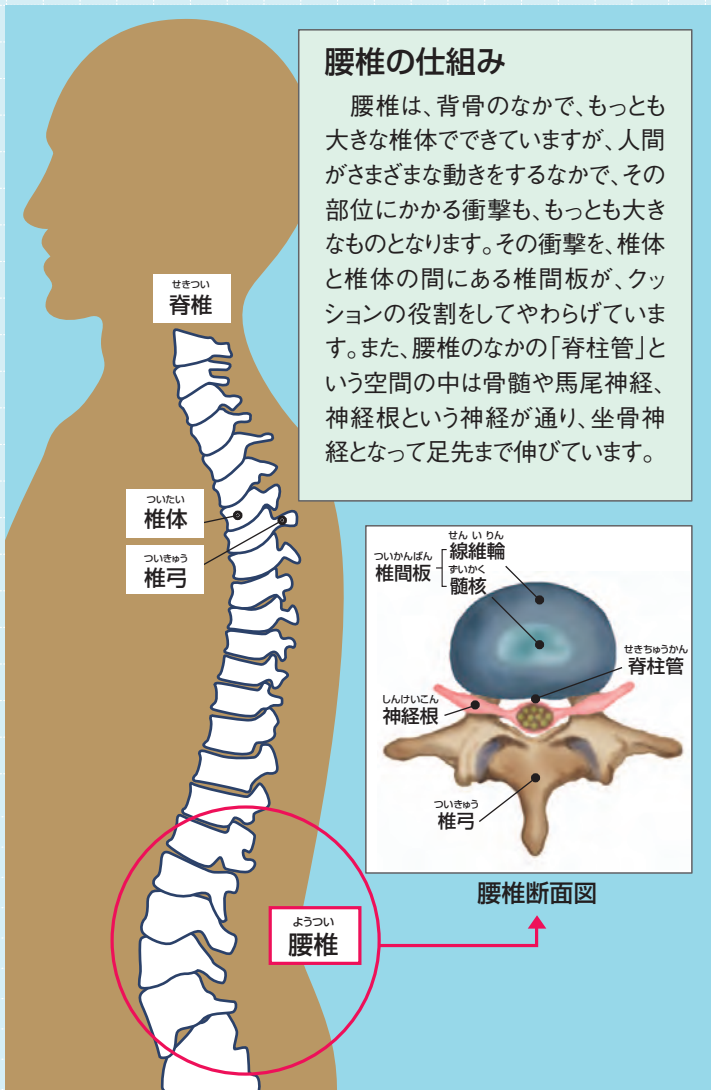
日本の次代のリーディング産業は、かつての“モノづくり”とは形を変え、その存在自体が社会に「豊かさ」をもたらすことが大切です。医療は、私たち自身が産業として捉え、構造転換を促進させ育てるという発想を持つことで、国際競争に打ち勝てる可能性を持つと考えます。

(※1)日本経済に大きな影響を持ち牽引する産業のこと

## 身体の機能疾患を理解しよう!

### 腰椎

脊椎（背骨）の下部、腰の部分のこと。5つの椎骨が椎間板を挟み込むように連なり形成されています。主要部である円柱状の椎体はすべての椎骨の中で最も厚く大形です。



#### 腰椎の仕組み

腰椎は、背骨のなかで、もっとも大きな椎体でできていますが、人間がさまざまな動きをするなかで、その部位にかかる衝撃も、もっとも大きなものとなります。その衝撃を、椎体と椎体の間にある椎間板が、クッションの役割をしてやわらげています。また、腰椎のなかの「脊柱管」という空間の中は髄液や馬尾神経、神経根という神経が通り、坐骨神経となって足先まで伸びています。

#### 腰椎に多くみられる病気

##### 椎間板ヘルニア症

椎間板の中心部には髄核（ゼリー状の軟骨）があり、その周囲を線維輪（せんいりん）が囲んでいます。この線維輪に亀裂が入り、髄核や線維輪が飛び出して神経を圧迫すると、下肢の強い痛みやしびれなどの症状が出ます。若い人から中年に多くみられ、腰に負担をかけるような仕事やスポーツをしている人に起こりやすい病気です。

##### 腰部脊柱管狭窄症

50代以上の方に多く見られる病気です。背骨の中には脊柱管という骨の管があり、その中を神経組織が通っています。加齢や何らかの原因で脊柱管が細くなると、神経を圧迫し、腰や下肢に痛みが出るのです。「前かがみになると楽になる」という特徴があります。

##### 腰椎分離症・すべり症

椎骨の後方にある椎弓（ついきゅう）が分離している状態を「腰椎分離症」といいます。成長期の10代に多く、スポーツなどで繰り返し負荷がかかり、疲労骨折して発症すると考えられています。また、固定されていた椎体が前方へずれる状態を「腰椎すべり症」、椎弓が分離しつつ、椎体が前方へずれているのが「腰椎分離すべり症」です。

自宅で出来る

## 簡単予防

### 腰椎を支える腹筋を強化する運動

腰痛を予防するには腰椎を支える部位の筋肉（腹筋や背筋）を、柔軟かつ強くするのが効果的です。激しい運動で鍛えるのではなく、軽めの運動を毎日継続することが大切です。今回は腹筋を強化するための運動をご紹介しますので、自分のペースで続けてみてください。

痛みがある場合は、無理をせず安静にしてください。

#### ●腹筋を強化する運動（10回ずつ）



仰向けになり軽くひざを曲げます。手は軽く太ももの上に置きます。



肩が床から10cm離れるくらいまでゆっくりと上体を起こします。そのままの姿勢を5秒間保ちます。腰から上全体を起こす必要はありません。5秒たった元に戻ります。

## 「低侵襲経椎間孔腰椎椎体間固定術」(MIS-TLIF)

症状の重い脊椎疾患に対しては、神経を圧迫している部分を切除し、骨を移植して背骨を固定させる「腰椎椎体間固定術」を行います。この固定術のなかでも、とくに侵襲の少ない方法が、近年普及しつつある「低侵襲経椎間孔腰椎椎体間固定術」(MIS-TLIF)で、片側の椎間関節を温存する術式です。

患部のある背中や腰の部分約3cm切開し、筒状の内視鏡用開創器を挿入します。症状がある椎間関節を切り取り、椎間板を取り出します。そこに患者さまご自身の骨や骨バンクの骨を移植し、スクリュー、ロッドなどの内固定材料を使って、移植した骨と上下の椎体を固定します。

この手術は高額医療費助成対象となり、医療費の一部が還付されます。

### 手術後の経過

従来の椎体間固定術(PLIFまたはTLIF)では、約12~15cmの切開が必要でしたが、内視鏡などを駆使するこの術式では、傷口が小さく、患者さまの負担が少なく済みます。術後は多少痛みがありますが、手術の翌日から、固いコルセットを装着して歩行練習を開始することができます。平均10日前後で退院でき、約3カ月安静ののち、仕事へ復帰できます。骨が癒合するには約6カ月かかります。

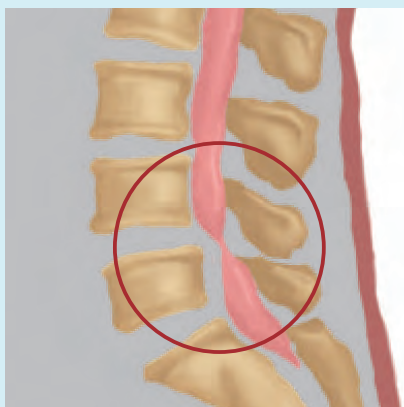
従来の方法「椎体間固定術」と「低侵襲経椎間孔腰椎椎体間固定術」(MIS-TLIF)との比較

手術法	手術時間	出血量	傷口	入院期間
椎体間固定術 (従来の方法)	約2時間	400ml	10cm ×1カ所	約4週間
MIS-TLIF	約2時間	200ml	3cm×1カ所 1cm×4カ所	10日前後

(1 椎間板の場合)

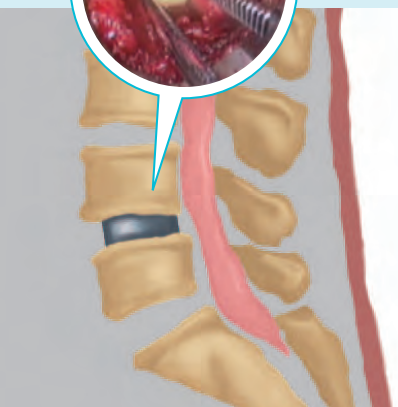
### 手術の手順

1



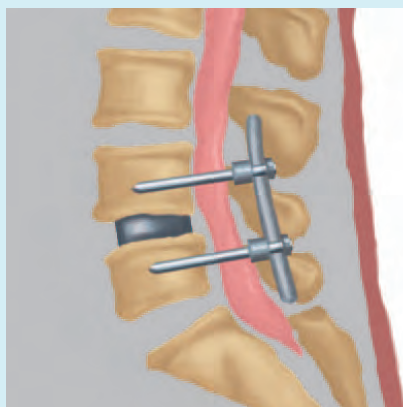
① 椎体が前方へずれ、神経を圧迫している状態。背骨に沿って3cmほど切開し、内視鏡用開創器を挿入します。

2



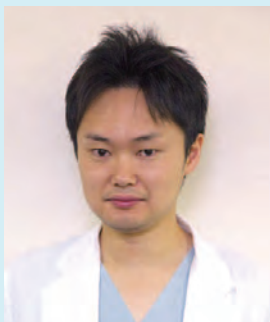
② 椎間関節を切り取り、神経を圧迫している椎間板や骨棘を取り出します。取り出した椎間板のあった場所に骨移植を行います。

3



③ スクリューやロッドを使って、移植した骨と上下の椎体を固定します。

### ◆ Dr.リレー紹介



原田 理人 はらだ まさと

- 生年月日 1975年8月29日
- 出身大学 東海大学(平成13年卒業)
- 専門医/認定医など  
日本整形外科学会認定専門医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医  
日本脊椎脊髄病学会認定  
脊椎脊髄病外科指導医

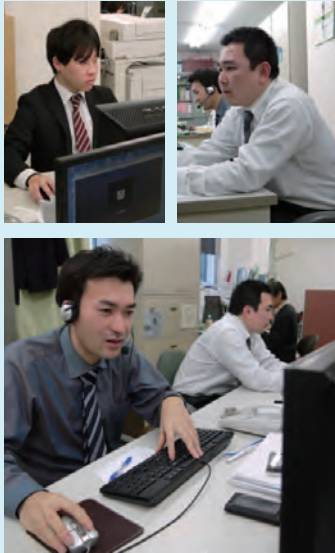
#### ● 一言メッセージ

脊椎疾患は、お体に負担の少ない低侵襲手術を行える病態から、それらが適応されない病態まで多岐にわたります。またDNA解析などによるオーダーメイド医療が目ざされて久しいですが、さまざまな症状に合わせ最適な治療法を用いる脊椎治療は元々オーダーメイド医療を行っているとも言えます。しかし症状によりさまざまな治療法があることで、不安に思われる方もおみえでしょう。医療、特に手術は日進月歩、まだまだ不確実な点もありますが、患者さまの不安を解消できるよう、解りやすい説明を心がけています。

診療情報部・システム

院内のあらゆる情報を管理する  
“縁の下の力持ち”

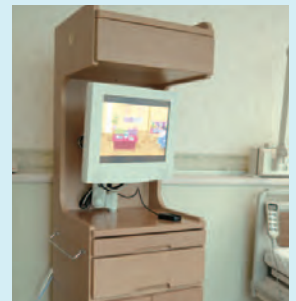
「診療情報部」は、その名の通り診療に関するさまざまな情報を管理・運用し、それらの情報が適正に活用されるよう努める部署です。「CS」、「医事」、「システム」という3つの部門に分かれ、それぞれ異なった業務を担っています。「CS」は電子カルテのデータ管理、「医事」は診療報酬の算定・請求業務、そして今回ご紹介する私たち「システム」は院内のすべてのパソコン、ネットワークの整備・管理を担っています。具体的には、職員に対して新しいシステムの操作説明やサポートを行ったり、パソコン等の不具合の連絡があれば、まずは電話サポート、それでも直らないようなら現場に駆けつけて調整をします。また、新しいシステムを導入する場合には、医師や技師と機器メーカーとの間に入り導入支援も行います。



電子化が進む病院内で  
システムの維持と進化に対応

近年の病医院では、たいへんに電子化が進んでいます。当院内でも電子カルテや画像システム、麻酔システム、入院患者さんのベッドサイドの「マルチメディアシステム（※）」など、さまざまな種類の電子システムがあり、どれ一つが欠けても、診療に支障が出てしまいます。これらを日常的に安定して稼働させるために、私たちが存在しているのです。また、こうしたシステムは日々進化していきますので、それらを、どのタイミングで、どのように取り入れていくかを考えていかなければなりません。現在は、iPadなどのタブレット型端末を使ったシステムをどのように取り入れていくかを検討中です。このように私たちの業務では、直接患者さんと触れ合う機会はほとんどありませんが、今後も陰ながら皆さんのお役に立てるよう努めてまいります。

※マルチメディアシステム…ベッドサイドにあるネットワークシステムで、病室にしながらインターネットやネット配信ビデオ、電子カルテの情報（医療者のみ）などを見ることができます。指紋認証システムでセキュリティにも配慮しています。



TOPICS

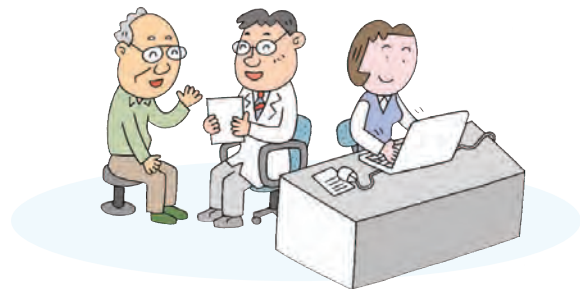
名古屋市医師会主催の医療セミナーで講演を行いました。

はちや整形外科病院でも採用している電子カルテ「ハニカム」を開発したハニーバリー株式会社が、名古屋市医師会主催の医療セミナーにおいて「電子カルテとMTが医療環境を変える」というテーマで講演を行いました。

ハニーバリー株式会社は、コンピューターシステム開発、人材育成といった側面からの医療経営支援をめざしており、現在、電子カルテ「ハニカム」のご紹介と医師が診療業務に専念できるようサポートするための人材「メディカル・トランスクリバラー（以下MT）」の育成に力を注いでいます。

今回の医療セミナーは、4月16日（土）名古屋市医師会共同ビルで開催され、地域の診療所の先生、看護師、医事課職員などにご参加いただきました。中小病院、診療所

ではまだまだ電子カルテ導入に躊躇されることが多いのですが、電子カルテとMTを合わせて導入することで、医療環境が効率化され医師が患者さんと向き合って診療ができるようになり、医療機関、患者さん双方に大きなメリットがあることを説明いたしました。今後もこのような機会があれば、地域医療発展のため積極的に参加したいと思います。



はちやメディカルホールディングス

〒464-0821 名古屋市千種区末盛通 2-4

TEL 052-751-8188 FAX 052-751-8178

URL <http://www.hachiya.or.jp>